

今去く人船の装載する磁器・雑物は、煩為わくは四海一家、遠人を懐柔し、自ら兩平に胡椒・蘇木等の貨を収買するを行つて聴し、早やかに発するを為し風迅に赶趁せしめんことを。回国して応に大明の御前に進貢するに備うべし。庶わくは往来を絶やさざらしめんことを。歳々心を堅くして以て終誓を永くするは豈に美ならざらんや。今、奉献の礼物を將て開坐し移咨す。施行せよ。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

官段五匹 青段二十匹

腰刀五把 摺紙扇三十把

大青盤二十個 小碗二千個

小盤四百個 硫黄三千斤 二千五百斤正と官報す

右、暹羅国に咨す

宣徳八年（一四三三）十月初三日

通事梁袖を差わす

咨

注（一）終誓 ほまれを永く持ちつづける。

（二）梁袖 久米村呉江梁氏（亀嶋家）（一家譜（二）七五四頁）。

1-40-17

琉球国中山王より暹羅国あて、歩馬結制等を遣わして公正な交易を請う咨（一四三四、九、二六）

琉球国中山王、見に礼儀の事の為にす。

切に微邦は東海に遠居するも、昔より今に及ぶまで貴国と深交するに縁り、通年遣使して微誠を礼献す。常に累ねて回恵を加うるを以てし、及び四海一家を念以て以て和好を結び永く往来を通ずるを蒙る。此の為に今、正使歩馬結制等を遣わし、専ら礼物を齎し詣前して奉献せしめ、少しく芹忱を伸ぶ。幸希わくは海納せよ。煩望わくは寛仁もて今去く人船の装載する磁器は、兩平に胡椒・蘇木等の貨を収買せしめんことを。回国して以て大明国に進貢するに備えん。発落を為すを請う。早やかに風に趁りて回還せしむれば便益ならん。今、奉献の礼物を將て開坐す。咨して施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

官段五匹 素段二十匹

摺紙扇三十把 大青盤二十個

小青盤四百個 小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

宣徳九年（一四三四）九月二十六日

礼儀の事

咨

注(1) 発落 決着をつける、の意であるが、ここでは打発に同じ。

行かせる。

1-40-18

琉球国中山王より暹羅国あて、阿普尼是等を遣わして公正な
交易を請う咨(二四三四、九、二六)

琉球国中山王、見げんに礼儀の事の為にす。

今、正使阿普尼是等を遣わし、礼物を持齎し貴国に詣献せしめて以て遠意を表す。万望むらくは容納せよ。仍お希ねがわくは今去ゆく人船の装載する磁器は、四海一家を念おもいて貿易を寛容し、両平に胡椒・蘇木等の貨を収買せしめんことを。回国して中国に貢するに備えん。即ただちに発落せしむるを請う。風迅に乗趁し回還すれば便益ならん。今、礼物を將て開坐し奉献す。咨して施行を請う。須らく咨に至るべき者なり。

今開ひらす

官段五匹 素段二十四

摺紙扇三十把 大青盤二十個

小青盤四百個 小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

宣徳九年(二四三四)九月二十六日

礼儀の事

1-40-19

琉球国中山王より暹羅国あて、阿普尼是等を遣わして速やかな
交易を請う咨(一四三五、九、一一)

琉球国中山王、礼儀の事の為にす。

切に卑国は東海に遠居するも、昔より今に及ぶまで貴国と深交し蓋し多年有るに縁より、然して堅心を以て常に四海一家を念おもい、永く往來を通ずるを結むすばんと欲す。此の為に今、正使阿普尼是等を遣わし、礼物を齎送し詣前して奉献せしめ、聊いささか微誠を表す。切に領納を希ねがう。煩ねがわくは、今去ゆく人船の装載する磁器等の物は、胡椒・蘇木等の貨を収買するを寛容せんことを。回国して中国に貢するに備えん。更に煩ねがわくは疾すまやかに発遣して回還せしめんことを。風迅を失悞する無く便益なるに庶ちかからん。今、礼物を將て開坐し移咨す。須らく咨に至るべき者なり。

今開ひらす

花段五匹 素段二十四 腰刀五把

彩色扇三十把 大青盤二十個